

1 教育目標

(1) 令和4年度名古屋市学校教育の努力目標

名古屋市は、昨年度まで、「なかまと学び 夢を創る」との努力目標のもと、名古屋市学校教育の充実と推進に努めてきた。それを受けて、本年度は、各学校が家庭・地域との連携や協力のもとに、学校運営と教育活動の改善に努める「創造していく学校づくり」を目指して、名古屋市学校教育の努力目標及び重点事項を新たに次のように設定した。

【令和4年度 名古屋市学校教育 努力目標】

ともに学び 自分らしく生きる

【令和4年度 名古屋市学校教育 努力目標達成のための重点事項】

- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指して、一人ひとりの興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- 子どもが、自他のよさに気づき、互いを尊重しながら自分らしく生きることができるようにするために、安心・安全で幸せな居場所となる学校づくりを推進する。

(2) 本校教育目標

令和4年度名古屋市学校教育の努力目標及び重点事項を踏まえ、本校では、今後も時代の流れや社会の変化に適切にかつ柔軟に対応できる、心身ともに健全な知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。具体的には、次の三つの柱を中心に据えた生徒の育成を目指す。

- 進んで学ぶ態度と創造力を身に付けることができる生徒の育成（自主創造）
- 望ましい人間関係を築くことができる生徒の育成（和と協力）
- たくましい心と体をつくることのできる生徒の育成（心と体）

2 本年度の学校教育努力点とその推進

令和4年度の名古屋市学校教育の努力目標及び重点事項、そして、本校教育目標に基づき、本校生徒の実態や地域の特色を踏まえて、本年度の学校教育努力点を次のように設定する。

【令和4年度 名古屋市立昭和橋中学校 努力目標】

主体的・対話的で深い学びを目指して

—自と他との関わり合いを大切にした教育活動を通して—

(1) 学校教育努力点の設定理由

本校では、令和元年度まで、「主体的・対話的で深い学びを目指して—『学び合い学習』を通して—」という学校教育努力点のもと、全教員による教科研究授業実践を設定したり、定期的な道德の研究授業を設定したり、また、特別活動によって協力することの大切さを感じさせ互いの人間性や自主性を高め合わせたりする場を設定したりしてきた。こうすることで、「学び合い学習」を通じた、なかまとの対話を大切にした主体的・対話的な取組への理解を深めてきた。これらの取組は、「学び合い学習」を行う場面をより明確にしたり、「主体的・対話的で深い学び」への研鑽をより深めたりすることに効果的であった。

令和2年度から、本校は、「—自と他との関わり合いを大切にした教育活動—」という学校教育努力点副題のもと、全職員が組織的に学校教育活動を推進してきた。

各教科領域の取組については、特別研究授業の機会を設定したり、言語活動やICT活用を踏まえた1人1実践以上の公開授業を行ったりしてきたことで、「主体的・対話的で深い学び」に向けて研鑽を深めてきた。また、学校参観開放日を定期的実施し、子どもや教師の授業への取組や学

校全体の様子を参観してもらい、本校の取組や魅力を周囲へと広げたりしてきた。

学校関係者からは、学校参観開放日等の取組について高評価を得ることができた。その一方で、「今後より良く開かれた学校づくりにしていくために、感染拡大防止に努めつつ、参観対象をさらに広げたり、学校ホームページをより充実させたりするとよい」との意見も得ることができた。

昨年度は中学校において新しい学習指導要領が全面実施となった年でもある。そこで、進化した子どもたちの学びや、「主体的・対話的で深い学び」についてより深く学ぶためにも、今ある教育活動の充実と伸長を図っていく。また、学校参観で得られた意見について、職員が情報共有するだけでなく、再検討し、改善点を見い出すところまでつなげていく。さらに、学校評議員や地域連絡協議会の方々等にも本校の実態を見ていただいたり、ホームページでより多くの情報発信をして充実を図ったりしていきながら、自と他との関わり合いを大切にした教育活動を推進させていきたい。学校教育活動に関わるあらゆる人や組織、事柄が互いに円滑に、かつ、向上し合いながら、より強いつながりで結ばれる温かみのある学校教育活動を推進していけることを引き続き目指していく。

(2) 学校教育努力点を推進するための各指導の場面とその具体的な手立て

① 教科指導

教科指導では、特別研究授業や、定期的な学校参観開放日を設定し、それらの場を通して、言語活動やICT活用を踏まえた1人1実践以上の公開授業を継続的に実施する。公開授業では、事前に努力点推進委員会や各教科部会で実践授業の内容について協議をし、それを「授業デザイン」として作成し、公開授業当日に配付する。特別研究授業では、代表教員による特別研究授業を行い、その授業を他の全教員で参観し、終了後に参観した授業内容について協議する。その後、外部講師等による講演会を設定することで「主体的・対話的で深い学び」に向けた研修会を行う。

② 特別の教科道徳

特別の教科道徳の指導では、前期と後期にそれぞれ研究授業を設定する。前期には、「情報の取り扱い方」を題材として、道徳研究授業を行う。具体的には、外部講師による「情報モラル・携帯電話の使い方等に関する講演会」を設定し、それを踏まえた道徳の授業を各学級で展開する。また、前後期には、「命の大切さ」を題材に、「なごやINGキャンペーン」に関連付けた道徳研究授業を行う。具体的には、校長による「命の大切さ・いじめ撲滅に関する講演会」を設定し、それを踏まえた道徳の授業を各学級で展開する。

③ 特別活動及び総合的な学習の時間

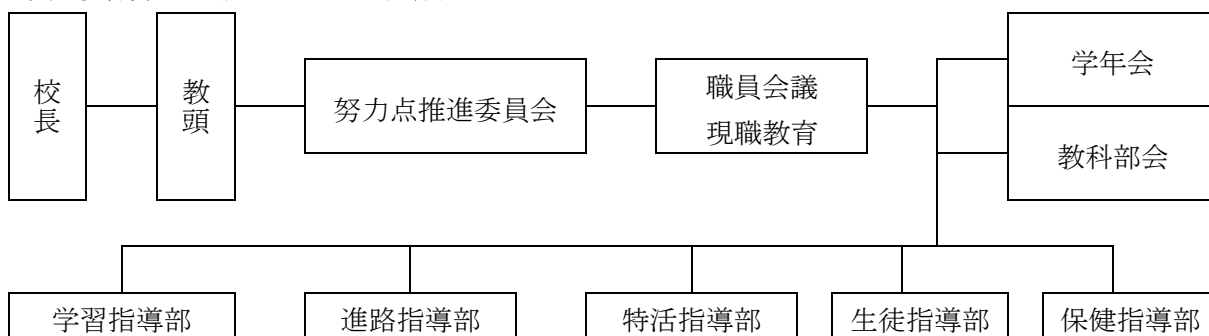
特別活動及び総合的な学習の時間では、生命・環境・国際理解・福祉・進路等の様々な分野において、自ら考えさせる学習や体験的な活動の中で、身のまわりの人と協力することの大切さを感じさせたり互いの人間性や自主性を高め合わせたりさせながら、主体的・対話的に問題解決に取り組ませ、自己の生き方について考えさせていく。

④ 学校を取り巻く人・組織・事柄の自と他との関わり合い

子ども・教師・保護者・地域など、学校を取り巻くあらゆる人・組織・事柄が、各々の立場や様々な場面において、主体的・対話的で深い学びに向かっていけるよう、関わり合いを大切にしたい教育活動を展開する。その際、あらゆる人・組織があらゆる事柄を自分のこととして捉え、積極的にその事柄へ関わっていく態度で臨んでいける雰囲気をつくっていきながら、コミュニケーションに重点を置いた教育活動の推進が望まれる。そのために、本校では、そのような場や機会の確保に努めていく。日々の授業においては、子どもが学習課題について、自分・他者・(学習課題の)対象との対話を基盤とすることができる授業の展開を図り、知識や技能、思考力・判断力・

表現力等、学びに向かう力を育てていく。また、教育相談や三者懇談会、日々の生活指導等においては、「子どもと子ども」「子どもと教師」「子どもと保護者」「教師と保護者」が、それぞれ対話を基盤とした温かみのある中で、コミュニケーションの充実を図っていきけるような指導を展開していく。さらには、定期的な学校参観開放日を定期的に設定し、日々の子どもの様子をはじめとした、子どもや教師の授業への取組や学校全体の様子を保護者や学校評議員、地域の方々に参観してもらう機会を確保したり、ホームページ等でより多くの情報発信をして充実を図ったりしていく。こうすることで、学校を取り巻くあらゆる人・組織・事柄が、主体的・対話的で深い学びに向かっていきける、自と他とが関わり合いを大切にした教育活動を推進していく。

(3) 学校教育努力点推進のための組織図



(4) 学校教育努力点推進の年間計画

月	実践の内容
4	学校教育努力点の決定、教育課程の検討、指導方法の検討、学校参観開放日
5	特別研究授業デザインの検討
6	特別研究授業、外部指導講師等による講演会等での研修
7	道徳の研究授業①（「情報の取り扱い方」）に向けた研修、道徳の研究授業①
8	授業デザインの検討①
9	
10	学校参観開放日（個別の研究授業及び授業デザイン配付①を兼ねる）
11	道徳の研究授業②（「命の大切さ・いじめ撲滅」）に向けた研修、道徳の研究授業②
12	授業デザインの検討②
1	学校参観開放日（個別の研究授業及び授業デザイン配付②を兼ねる）
2	
3	本年度の学校教育努力点の振り返り、次年度に向けた取組の検討

3 授業時間数年間配当表

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語	道徳	総合的な学習	特別活動	合計
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	50	35	1015
2年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	70	35	1015
3年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	70	35	1015

○ 特別支援学級の指導形態

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語	道徳	特別活動	総合的な学習	自立活動	生活単元学習	合計
G組	105	35	105	35	35	70	70	210	35	35	35	70	70	105	1015
H組	105	35	105	35	35	70	70	210	35	35	35	70	70	105	1015